政策コメンテーター報告（第２回、意見照会期間：2014年９月24日～10月６日） キャシー松井：ゴールドマン・サックス証券株式会社マネージングディレクター

質問事項		選択式回答	記述式回答
経済動向		悪くなっている	経済状況全般について言えば、3ヵ月前と比べ、やや悪化している。企業収益の伸びは続いており、株式市場は6年ぶりの高値を付けたが、実質所得の減少により個人消費は伸び悩んでいる。また、円安が進んでいるにもかかわらず、輸出数量は低迷を続けている。
1-1	現在の経済状況について、関連する業界、地域等の現状やご自身の知見・経験等を踏まえ、3か月前(6月下旬から7月上旬)と比べて良くなっているか、悪くなっているか選んでいただき、その理由をデータや具体的な事例とともに300字以内でご記入ください。その際、前年との違い等お気づきの点があれば併せてご記入下さい。		
1-2	今後の経済のリスク要因（第1回時点と比較して変化がある場合）、あるいは将来への新たな期待要因について、300字以内でご記入ください。	－	9月以降の経済の新たなリスク要因としては、(1)急激な円安により輸入燃料価格が一段と上昇し、家計の可処分所得や中小企業の利益マージンを圧迫する可能性、(2) 中国や欧州の景気減速の兆候、が挙げられる。
経済再生と両立する財政健全化		－	経常黒字は縮小傾向にあり、政府は歳出削減と税収拡大を並行して実施するなど、長期財政再建計画を予定通りに進めることが重要だ。一方で財政引き締めに耐えうる力がないと判断される場合は、景気刺激策も必要であろう。日本は税収の対GDP比がOECD内でも最低に近く、法人と個人双方の課税ベースを拡大する必要がある。歳出面では、年金支給開始年齢の引き上げや高齢者の医療費の自己負担割合の見直しなどにより、社会保障費の削減に取り組むことが求められる。こうした提案は当然、反対も多いと予想されるが、日本が長期的な財政の持続性を確保するためには、必要不可欠な措置と考える。
2	財政健全化に向け、歳出削減等を始めとして様々な取組が考えられますが、具体的取組内容についてのお考えを300字以内でご記入ください。		

政策コメンテーター報告（第２回、意見照会期間：2014年９月24日～10月６日） キャシー松井：ゴールドマン・サックス証券株式会社マネージングディレクター

質問事項		選択式回答	記述式回答
女性の働き方に中立的な税制・社会保障制度等の在り方			
３－１	どのように女性の働き方に中立的な社会制度を実現していくべきとお考えか、その理由とともに300字以内でご記入ください。	－	現行の税制および社会保障制度は既婚女性のフルタイム就業の妨げとなっている。既婚女性が専業主婦とフルタイム就業のどちらを選択した場合も、その選択に対して中立的であるように両制度の改正が必要である。
３－２	女性の働き方に中立的な制度を論じるに当たって、その背景にある事項（女性が働くことへの人々の意識や職場慣行、男性の働き方、子育て支援等の環境整備、家族のあり方等）について、特に言及すべきことがありましたら300字以内でご記入ください。	－	日本の潜在成長率や生活水準の急激な低下を防ぐには女性の就業率引き上げが不可欠。当社試算では、日本の男女の就業率格差の解消によりGDPが約13%近く押し上げられる可能性がある。その実現には、働き方に中立的な方向での税・社会保障制度の見直し以外に、政府には保育/介護サービスの規制緩和、入管法の規制緩和、女性の活躍に関する情報開示の義務化、非正規労働者と正規労働者の処遇公正化等を、企業には、ダイバーシティ推進効果のアピール、柔軟な勤務環境の実現、客観的な評価制度の導入、明確なダイバーシティ目標の設定などを、社会では様々な誤った通説の打破や家庭内での男女平等の推進を、それぞれが努力する必要がある。